

富岡製糸場開業記念日特別上映



あか たすき

映画 紅い袴

～富岡製糸場物語～



明治維新、日本の大転換期一

若き女性たちの活躍が、産業のあらたな扉をひらいた
知られざる感動の物語



無料

※但し、市民以外の方は、
富岡製糸場入場料が必要となります。

令和元年 10月4日(金)・5日(土)・6日(日)

場所

富岡製糸場首長館

定員

各回 100名

- ◎事前の申し込みはできません。
- ◎各回、定員となり次第、受付終了といたします。
- ◎各回、20分前からの入場となります。

上映時間

- 1回目：10:00～11:40
- 2回目：13:00～14:40
- 3回目：15:10～16:50

富岡製糸場
・開場時間/9:00～17:00(最終入場 16:30)
・入場料/大人：1000円、高校・大学生(要学生証)：250円
小・中学生：150円
〒370-2316
群馬県富岡市富岡1-1
TEL 0274-67-0075
(イベントに関する問合せ：富岡製糸場課 / TEL 0274-64-0005)

富岡市では、富岡製糸場の世界遺産登録3周年に記念として、映画「紅い襷」を制作しました。

かぶら文化ホールや全国の映画館等で大勢の方にご鑑賞いただき、多くの方から賞賛をいただきました。この映画「紅い襷」を今年も富岡製糸場開業記念日に上映いたします。

映画「紅い襷」あらすじ



2014年、世界遺産に登録された「富岡製糸場と絹産業遺産群」。それは、かつて日本人とフランス人の女性がともに、時代を切り開いた証です。明治初期、日本の近代化を大きく牽引した輸出品は重厚な「軍艦」ではなく、しなやかな「絹」でした。その生産を支えていたのは、名

もなき女性たちの手であったことをご存知でしょうか。故郷を離れ、新しい日本のために糸をひき続けた若き工女たちと、フランスから、製糸業を通して日本の近代化に尽力した、製糸場の首長ポール・ブリュナと、エミリ夫人、そして厳しくも温かいフランス人女性教師。彼女らによって、日本に新たな産業の風が吹き込まれたのです。工女たちが、それぞれの不安や葛藤を抱えながらも、次第に身分や国境を超え、近代化という扉を自ら開いた先で手にしたものとは？そして「生糸の神様」と呼ばれたブリュナが日本に残したものとは……？日本の近代化を担った若き工女たちの姿を、長野・松代の工女横田英の手記をもとに紐解いていきます。



少女たちの想いがつなぐ感動の物語

富岡製糸場はfacebookで場内施設やイベント情報を発信しています。ぜひご覧ください！→

